

⑥燃料電池自動車の普及促進に向けた水素ステーション整備事業(論点シート)

論点1 成果目標は適切に設定されているのか。

- アウトプットが全国で整備された水素ステーション数のみしか設定されていないが、運営費などの他の指標も設定すべき。
- 2030年度までに900箇所の水素ステーション整備を目標としているが、2050年カーボンニュートラルを目指すにあたって、適切な目標となっているのか改めて精査すべき。

論点2 適切な予算執行がなされているのか。

- 100億円を超える予算規模であるにも関わらず、執行率が低い水準に留まっている。執行率の改善に向けて見直しを行うべき。
- 補助率は適切に設定されているのか。補助率が高く設定されていることによって自立化までのリードタイムが長くなってしまっていないか精査すべき。

論点3 事業の改善のポイント。

- 水素ステーション1箇所あたりの整備により、何台のFCV普及効果があるかを定量的に分析した上で、次年度以降のアウトカムをより精緻に設定すべき。
- 水素ステーションの最適配置を考えるにあたっては、乗用車のユーザーの利便性最大化という指標のみならず、各地域の特性などに応じて、商用車を含めたFCV普及ポテンシャルがどの程度見込めるかなど、総合的に勘案した上で進めていくべき。